

1 はじめに

安全に資する科学技術については、既に中間まとめを、第6回基本政策専門調査会(17年4月26日)に報告した。基本政策の審議及び推進戦略策定に資するため、基本的考え方と事態・事象別の取組を整理した。

2 安全に資する科学技術推進戦略の基本的考え方

想定される事態のシナリオの設定

【危険要因(ハザード)、想定被害(リスク)、技術的実現性を勘案】

- 国として、どのような事態が発生しても、「これだけは譲り抜く」又は「これを超えた被害だけは起こさない」とする考え方を導入すべき

第一義的に、予防対策の重視

【想定被害(リスク)の低減化を可能とする対策を優先】

- 過密都市圏・危険物施設等における被害予測技術
- 犯罪・テロ対策による情報収集・分析・水際対策、など

事態発生後の迅速な対応(初動対応)の充実強化

【人命優先、救助・救命救急、被害拡大防止】

- 現場救助支援のための装備資材・情報基盤
- 病原体・病因物質等の迅速検知・サーベイランス、など

(留意点)

- 国際的に比較優位な安全に資する科学技術については、標準化を念頭に、競争力の確立に向け積極的に推進
- 長期自立的に維持すべき安全に資する基幹的な科学技術の着実な推進
- 適切な技術管理の下、米国・アジア等との研究開発協力・連携を推進

3 安全に資する科学技術の取組(事態・事象別)



4 安全に資する科学技術推進の仕組みの構築

研究開発体制

- 個人・社会ニーズと技術シーズとを結び付け、現場で役立つ技術開発を重視
- 持続的取組のためのフォローアップ体制

人文・社会科学との協働

- 地域社会との連携のあり方
- 社会が受け入れやすい技術活用システムのあり方

研究者・技術者の確保・育成

- 安全に関わる急速な情勢変化に対応した各専門分野の研究者・技術者の継続的な確保育成
- 安全に関する倫理を守り、行動できる人材育成

安全知のネットワーク構築

- 安全に関する情報・知識の共有・統合化を進め、想定外の事態発生時にも対処